

# 留萌市立病院 後期臨床研修プログラム

## プログラムの運営

### 1. 研修の理念

「地域住民に対して最も適切な医療が提供できる医師を育成します」

【理念の趣旨】

留萌市立病院の理念の下、地域医療の向上に努め、診療以外に救急医療、病診・病病連携、在宅医療、疾病予防、公衆衛生活動、健診、人間ドックをとおして地域住民に対して最も適切な医療を提供できる医師を育成する。

### 2. 研修管理体制

研修管理委員会を組織し、留萌市立病院後期臨床研修プログラムを運営する。

(研修管理委員会名簿のとおり)

### 3. 研修の目的及び修了

すでに初期臨床研修で取得しているプライマリ・ケアの基本的な診療能力をさらに高めることに加え、専門とする診療科の学会の認定医や専門医取得に向けて基礎を身につける事を目的とする。

またこの他、別添に掲げる診療科プログラム毎に目標及び修了の基準を定める。

修了の認定は指導医の評価を参考に研修管理委員会が認定し、修了証を発行する。

### 4. 研修の特徴

- 1) 単一の診療科、または複数の診療科を希望により選択研修することができる。
- 2) 学会活動を積極的に支援する。

### 5. 研修期間

診療科プログラムごとに設定

# 履修診療科別研修プログラム

## I. 内科（消化器内科）研修プログラム

### 1. 診療科の概要

当院内科・消化器科は2病棟86床を有しており、スタッフは常勤7名で診療にあたっています。

当科は消化器科を中心として一般内科・膠原病・内分泌・免疫・感染症・血液と幅広い分野の診療を行っています。

当科の年間内視鏡検査件数は、上部消化器官内視鏡約2,262件、下部消化器官内視鏡約1,021件、内視鏡的逆行性胆管膵管造影約136件です。また、近年注目されている経鼻内視鏡やダブルバルーン式小腸内視鏡検査も積極的に行っております。治療内視鏡もESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）をはじめとしてEMRやポリペクトミー、ESTやEPBD、さらに胆道ステント留置術や消化管悪性狭窄に対するステント留置術も行っております。そのほかにPEG（内視鏡的胃瘻造設術）など患者様のQOLを重視した治療も行っています。

### 2. 認定施設

- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・日本消化器内視鏡学会指導施設

### 3. 研修内容スケジュール

消化器疾患の診断・治療が的確に行えることを目的とし、日本内科学会認定医および日本消化器病学会専門医の認定を最終目標として研修を行います。

詳細のスケジュール等は個人の希望を踏まえ、個別のスケジュールとなります。概ね外来（入院）診療での内科的診断、治療方針の策定、検査・治療の実施によるスキル修得、救急での緊急的診断治療への対応などを総合的に学んでいただきます。

### 4. 研修期間 2年間

## 5. 指導医

- 笹川 裕 (日本消化器病学会専門医・日本消化器病学会指導医・  
日本内科学会認定医・日本人間ドック学会認定指定医・  
日本血液学会専門医・日本医師会認定産業医)
- 上野 芳経 (日本消化器病学会専門医・日本内科学会認定医)
- 齊藤 忠範 (日本消化器病学会専門医・日本消化器内視鏡学会専門医・  
日本消化器内視鏡学会指導医・日本内科学会認定医  
がん治療暫定教育医)
- 荃津 武大 医学博士号  
(日本消化器病学会専門医・日本内科学会認定医  
日本消化器内視鏡学会指導医・  
がん治療認定医・肝臓病専門医)
- 宮島 治也 (日本内科学会認定医・日本消化器病学会専門医・  
日本消化器内視鏡学会専門医・がん治療認定医)
- 野田さや香 (医長) (日本内科学会認定医)
- 定免 渉 (副医長)

## 6. 研修医の方々へのメッセージ

消化器疾患のスペシャリストになるには、個人的な勉学による知識の習得はもちろんですが、できるだけ多くの症例に携わり実践を通して治療技術を習得していくことが大事であると思われます。

当院は留萌管内全域より患者様が集まり、症例は非常に豊富ですので研修には最適な環境と言えるでしょう。また、消化器以外の疾患を抱えている患者様も多く、総合的な内科の実力も同時に養うことを目標とし、指導を行っていきたいと思っております。

## II. 内科（循環器内科）研修プログラム

### 1. 診療科の概要

地域センター病院の循環器内科部門として、循環器疾患全般における外来・入院治療と救急医療を行っています。現在常勤医3名体制（循環器専門医2名）で活動しています。

### 2. 認定施設

- ・日本内科学会教育関連施設
- ・日本循環器学会研修関連施設

### 3. 目標

患者中心の全人的医療を行い、かつ循環器専門医として幅広い診察能力を習得する。

### 4. 行動目標

日本循環器学会「循環器専門医研修カリキュラム」に基づいて多くの症例を経験する。良質な患者・医師関係が構築でき、チーム医療の構成員として他のスタッフと協調して診療を行うことができる。

### 5. 研修内容

病棟での診療（医療面接、基本的身体診察、検査・治療計画の立案と説明）

各種検査（心電図、心血管エコー、心臓核医学検査、トレッドミル、冠動脈CT、カテーテル検査）の手技習得と読みのトレーニング

冠動脈インターベンションやペースメーカー植え込み、急性血液浄化など侵襲的治療の習得

外来診療（慢性期管理や危険因子の管理、予防医学、病診連携）

救急対応（救急外来当直および循環器救急当番）

学会活動・研究活動

### 週間スケジュール（1例）

	午前	午後
月	心筋シンチ、病棟	心カテ

火	抄読会(8:00) 病棟診療	心エコー カンファレンス(16:45)
水	病棟・救急診療	
木	病棟診療・心エコー	心カテ カンファレンス
金	心筋シンチ	心エコー

## 6. 研修期間 : 2年間

日本循環器学会認定の循環器専門医を目指している方の場合、6年以上の学会歴と研修施設での3年以上の研修が必要です。当院は研修関連施設のため1/2の研修期間として認められます。

## 7. 指導医

高橋 文彦 (日本循環器学会専門医・日本内科学会総合内科専門医)

大蔵 美奈子 (日本循環器学会専門医)

後藤 全英 (副医長)

## 8. 特徴

- ・留萌管内唯一のカテーテルインターベンション施設として豊富な症例を経験できます。
- ・他部門との連携：内科（総合、消化器、腎臓、呼吸器）との連携により、患者さんを全人的に診られます。
- ・関連病院との連携：旭川医大、市立旭川病院などと連携し、患者さんに最適な医療を行っています。
- ・研修内容は、本人の意向に合わせて柔軟に対応します。また、時間的・経済的待遇は悪くありませんので、ご興味のある方はぜひご連絡下さい。

## Ⅲ. 外科研修プログラム

### 1. 診療科の概要

当科外科では、病床数32床、手術症例数年間約350件で、スタッフ5名で診療にあたっています。約5万人の医療圏を背景とした地方中核病院の使命を担うため、ほとんどすべての疾患に対応することが必要です。外科プライマリー疾患はもちろん、消化器外科・呼吸器外科・血管外科、外傷などの緊急疾患にも柔軟に対応しています。

対象となる手術の内訳は、腹部一般・消化器外科手術が年間約250件、呼吸器外科疾患・血管外科疾患がおのおの約30件、乳腺・甲状腺疾患が約25件などとなっています。また、腹腔鏡・胸腔鏡下手術も積極的に取り入れています。

診療の実際として、午前中に外来と病棟回診を行い、午後に手術を行います。緊急症例には随時対応しています。

### 2. 認定施設

- ・日本外科学会外科専門医制度修練指定施設
- ・日本消化器外科学会専門医制度専門医関連施設
- ・日本呼吸器外科専門医合同委員会認定関連施設

### 3. 研修内容スケジュール

まず外科専門医を取得することを最大の目標とします。このため日本外科学会へ入会、修練開始登録を行っていただきます。

日本外科学会外科専門医予備試験（筆記試験）は後期研修開始後3年目、認定試験（面接試験）は同4年目で受験することになっています。これに必要な最低手術経験数350例と術者としての経験120例を、手術難易度と個人の到達レベルにあわせて暫時経験していただきます。さらに消化器外科、呼吸器外科乳腺専門医など外科サブスペシャリティーの取得を希望される場合には、外科専門医取得後おのおの一定期間の手術実績と必要な業績を持つための指導を十分にさせていただきます。

### 4. 研修期間 2年間

### 5. 指導医

越湖 進 (日本外科学会認定医・日本外科学会指導医・日本胸部外科学会認定医・  
日本外科学会専門医・日本外科学会指導医・消化器外科専門医・  
呼吸器外科専門医・日本乳癌学会認定医)

山崎 左雪 (呼吸器外科専門医・胸部外科学会認定医・  
外科学会認定医・消化器外科学会認定医  
マンモグラフィ読影認定医)

野田 雄也 (医長)

伊藤 愛子 (副医長)

高松 昌史 (副医長)

## 6. 研修医の方々へのメッセージ

一人前の外科医になるには決して近道はありません。

「患者の側に居たれ！！」

そして確かな手術手技と術後管理法、そして何より患者への接し方を身に付けるための  
日々努力と勉強を望みます。

## IV. 麻酔科研修プログラム

### 1. 診療科の概要

当院では一般外科・消化器外科・呼吸器外科・血管外科・整形外科・脳神経外科・形成外科・泌尿器科・産婦人科・眼科などの症例が年間1,500例、うち麻酔科管理のものが800例あります。急性期の一般的な医療機関で幅広く・数多い症例を診ることが出来ます。また、24時間体制をとり、緊急手術に対応しています。安全性を重視し、並列麻酔はやらせません。

### 2. 認定施設

- ・日本麻酔学会の麻酔認定病院

### 3. 研修内容

麻酔科医として、麻酔管理と全身管理を習熟することを目標とし、日本麻酔科学会麻酔科認定医の習得を最終目標として研修を実施します。

麻酔科所属で学び、2年後（前期研修の期間も含む）「麻酔科標榜医」を申請し、麻酔科認定医を習得します。

詳細のスケジュール等は個人の希望をある程度取り入れ決めます。

### 4. 研修期間 2年間（専門医を目指す場合、別に期間を考慮する）

### 5. 指導医

川田 勝己（日本麻酔科学会専門医）

横田 啓（日本麻酔科学会専門医）

### 6. 研修医の方々へのメッセージ

麻酔科は忙しいときもありますが、個人のための時間が最大限とれるよう努力します。趣味のための時間や家族とのための時間を大切に考えています。

## V. 総合内科研修プログラム

### 1. 診療科の概要等

平成 20 年 4 月に留萌家庭医療後期研修プログラムの認定を受けました。

当院は地域センター病院・救急告示病院等の指定を受けており、留萌管内の中核病院としての使命を担っておりますが、管内の地域医療の充実を図るためには、様々な診療科を幅広く診察ができる医師の確保・養成が求められているため、管内の一次医療を守ることができる医師を養成する。

家庭医を確保できた場合には、当院では総合内科医として診療に従事し、及び管内町村の診療所等へのローテーションによる派遣体制の構築を目指しております。

### 2. 認定施設

留萌家庭医療後期研修プログラム認定施設

### 3. 研修内容

留萌市立病院における各種診療科での研修を始めとし、E R 型救急研修、離島・診療所での研修及び旭川医大との連携による I C T を活用した 2 4 時間在宅終末期医療研修などにより、地域に密着した医師を育成します。

### 4. 研修期間 3年間

### 5. 指導医

笹川 裕 (総合内科指導医)

上野 芳経

齋藤 忠範

### 6. 研修医の方々へのメッセージ

留萌地域は高齢化が進んでおり、当院を中心とした管内各診療所との連携により、地域医療を守ることが必要であり、当院で養成・確保した家庭医を各診療所等に派遣できる体制を築くことを目指しております。当地域の実情を理解し、地域医療を守るためにご協力をいただけることを期待しております。

## VI. 整形外科研修プログラム

### 1. 診療科の概要

当院整形外科では、病床52床、外来患者数1日100人、年間手術症例数400例、スタッフ4名で診療に当たっております。手術症例は外傷（骨折、脱臼、靭帯損傷など）が中心です。留萌管内には、整形外科に関する外傷に対して手術ができる施設は当院しかないので、北は遠別町、南は増毛町までの広範囲をカバーしています。

その他に腰椎椎間板ヘルニアに対するヘルニア摘出術や変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術など変性疾患に対する手術も行っております。先進医療では札幌医科大学整形外科と連携して、それぞれの分野の専門医による鏡視下での脊椎、膝、肩の手術などを行っております。外来においては小児の股関節脱臼や骨粗鬆症の検診など幅広い年代についての診療をしています。

### 2. 認定施設

日本整形外科学会専門医認定施設

### 3. 研修内容

整形外科疾患は大きく分けて外傷と変性疾患の二つに分けることができます。研修内容は一般外傷（創傷治療・骨折・脱臼）について実際に上級医の指導の下で診察、治療を行っていただきます。その中で特に多い大腿骨頸部骨折や橈骨遠位端骨折においては手術治療も行っていただきます。変性疾患では脊椎疾患、膝関節に対する診断と治療方法について学んでいただきます。

### 4. 研修期間 1年間

### 5. 指導医

堀 清成 日本整形外科学会（専門医）（脊椎脊髄病医）（運動器リハビリテーション医）

平野 章 日本整形外科学会（専門医）

大西 史師

興村慎一郎

## **6. 研修医の方々へのメッセージ**

今後整形外科を専攻する方は勿論のこと、専攻しない方へも一般救急外来で困らないレベルまで指導したいと考えております。